

第5回 県内技術研究発表会（平成21年10月30日）

	論文題名	所 属	氏 名	
1	中小河川に関する河道計画の技術基準を基にした河川計画の見直しについて	松江県土整備事務所	主幹 上野 博史	
2	大規模プロジェクトにおける住民合意形成	松江市 大橋川治水対策推進課	副主任 永田良和	○
3	クロスチェック体制の整備について	高規格道路事務所	主任技師 金津裕治	☆
4	柿原池改修工事における底樋施工事例	松江県土整備事務所	主幹 石川明久 主任 岸本卓也	
5	地すべり災害時の緊急対応について	松江県土整備事務所	主任技師 小石尚寿	
6	橋種選定における点数評価方式の検討・導入について	松江県土整備事務所 高規格道路事務所	企画員 中島 敬 主任 田中亮一 主任 佐藤啓介	
7	覆砂工事における再生材の利用の検討	松江県土整備事務所 広瀬土木事業所	石倉隆司	
8	本町川の改修計画にあたって	浜田県土整備事務所	主幹 土屋孝一	
9	取得補償立木の処理に関する取り組み	浜田県土整備事務所	主任 福島琢二	
10	出雲大社周辺における道路美装化工事のコスト縮減について	出雲市大社門前町整備課	主任技師 安食秀美	☆
11	ダムの放流警報の疑問	浜田県土整備事務所	主任 原田裕司	○
12	遊水地内における橋脚の施工計画及び管理について	出雲県土整備事務所	主任 園山千尋	
13	道路をもっときれいに 道路愛護団体との対話を通して得たもの	浜田県土整備事務所	主任 沖田英暁	

○…優秀賞 ☆…聴講賞

平成21年度 県内技術研究発表会 日程表及び発表者論文の概要

- | | |
|-----------------|-------|
| 1. 開会 | 9:00 |
| 2. 挨拶 | 9:00～ |
| 3. 発表会における留意事項等 | 9:10～ |
| 4. 研究発表会 | 9:15～ |

発表課題	
1 9:15～	<p>【中小河川に関する河道計画の技術基準を基にした河川計画の見直しについて】／一般(河川計画) 松江県土整備事務所 土木工務部 河川港湾G 主幹 上野 博史</p> <p>平成20年3月に「中小河川に関する河道計画の技術基準」が策定されたが、これを基にした河川計画の検討例をもとに、その適用にあたっての仮題と留意点を述べる。</p>
2 9:40～	<p>【大規模プロジェクトにおける住民合意形成】／Ac 松江市役所 政策部 大橋川治水対策推進課 副主任 永田 良和</p> <p>S54年に国交省が発表した斐伊川・神戸川治水事業の一環である「大橋川改修事業」については、S57年の事業着手から今日まで約30年間事業が中断していた。</p> <p>平成14年の宍道湖・中海淡水化事業中止に伴い、汽水域環境に配慮した大橋川改修計画に変更し、平成16年12月に具体的内容の発表に至ったが、事業中断期間が長かったことから住民の行政への不信感があらわとなった。また、築堤によって国際文化観光都市である松江の景観を損ねるのではないかと、松江大橋は松江を代表する橋梁であり架け替えるのは反対であるなど、様々な意見が寄せられ、中でも、大堤防により水都松江の景観が失われるとの意見が大多数を占めた。</p> <p>そこで、市民意見交換会や地元説明会などを度々開催し、治水計画の妥当性について専門用語をなるべく使用せず、市民に解りやすい言葉へ置換えて説明したり、さまざまな機会でも提出された市民の意見を考慮し、土堤による築堤を最小限に抑えた堤防構造へ変更して、その実寸大模型を大橋川沿いに設置し実際に体感して頂く事で、感覚的に堤防構造を理解して頂くなど、理解不足や勘違いからくる反対意見や住民の不安を徐々に払拭していった。また、非現実的な意見に対しては、その理由や根拠を提示することで、非現実的であることを丁寧に説明し、ご理解頂くことに努めた。このような活動を学識経験者や関係団体の代表者からなる「大橋川周辺まちづくり検討委員会」と連携して実施し、平成21年3月に「大橋川周辺まちづくり基本計画」を策定した。</p> <p>この3年間にわたる議論の中で、最重要課題は住民の合意形成であったが、松江市長及び松江市議会は、平成20年12月議会において、大方の住民合意形成は得られたと表明し、大橋川改修事業の早期着手を国へ要望するに至った。この判断にたどり着くまでの合意形成プロセスについて、ポイントを絞り発表する。</p>
3 10:05～	<p>【クロスチェック体制の整備について】／一般(設計・積算) 高規格道路事務所 工務部 第五大橋第三G 主任技師 金津裕治</p> <p>松江第五大橋道路事業において、各構造物毎(地盤改良含む)にクロスチェック体制を整備し、設計・積算・施工の照査、課題の検討を行い、職員間の情報の共有および技術力の向上を図っている。</p> <p>このクロスチェックの活動内容及びその成果について報告する。</p>
10:30～	休憩:5分
4 10:35～	<p>【柿原池改修工事における底樋施工事例】／一般(ため池工事施工管理) 松江県土整備事務所 農林工務部 農村整備G 主幹 石川明久 主任 岸本卓也</p> <p>松江市西谷町地内の柿原池は平成16年に底樋管の破損により、下流に水があふれ、14世帯の避難や旧鹿島町のほぼ全域、旧松江市の一部で上水道が断水する事態となった。</p> <p>平成20年8月から今年の8月にかけてこの底樋や斜樋を施工した。6月末までに完成する工程計画のもと工事を進めたが、推進工法による底樋工の施工段階で当初見込んだ進捗より大きく遅れることとなったため、その原因などについて検討を重ね、工程の回復に苦慮した事項を一例として紹介する。</p>
5 11:00～	<p>【地すべり災害時の緊急対応について】／一般(調査・設計・安全) 松江県土整備事務所 土木工務部 砂防G 主任技師 小石 尚寿</p> <p>平成21年7月1日惣津地区において地すべり災害が発生した。</p> <p>(主)松江鹿島美保関線と人家密集地における緊急時の対応と、調査・設計における概要をとりまとめた。</p>
6 11:25～	<p>【橋種選定における点数評価方式の検討・導入について】／一般(橋梁設計) 松江県土整備事務所 業務部 用地第一G 企画員 中島 敬 高規格道路事務所 工務部 第五大橋第二G 主任 田中 亮一 第五大橋第一G 主任 佐藤 啓介</p> <p>橋梁は重要な構造物であり、その設計・検討においては建設コスト比較はもとより施工性や今後の維持管理に必要となってくるメンテナンスの難度、また場所によっては周辺環境との景観の調和など、様々な事柄を総合的に検討することが必要である。</p> <p>また同時に、近年では行政、特に公共事業においては、住民から厳しい視線が向けられており、事業評価や入札制度をはじめとして、より一層の情報公開・説明責任が求められる。</p> <p>このような中、橋梁専門部会では橋梁設計における橋種選定を行う上で、客観的な妥当性や選定過程の透明性を確保するために、平成19年度から橋梁設計における橋種選定の点数評価方式の導入について検討していることから、技術発表会の場をお借りして、点数評価方式の導入にあたっての検証内容、及び今後の展開について報告したい。</p>

7 11:50~	<p>【覆砂工事における再生材の利用の検討】／一般(コスト縮減) 松江県土整備事務所 広瀬土木事業所 河港砂防G 石倉隆司</p> <p>安来港海域環境創造事業による海域覆砂の効果を検証し、覆砂材料の再生材利用の可能性を検討した。</p>
12:15~	<p>昼食・休憩:45分</p>
8 13:00~	<p>【本町川の改修計画にあたって】／一般(河川) 浜田県土整備事務所 土木工務部 河港砂防第一G 主幹 土屋孝一</p> <p>本町川は、江の川下流域の住宅密集地を流れる支川であり、これまで度々浸水被害をもたらしてきている。こうした中、平成7年度に国土交通省により内水対策として本町川河口部に排水機場が設置され、これを契機に、県では、平成8年度から本町川の改修計画の検討を行っている。10数年経過をした現在、平成22年度からの事業化を目指し、改めて改修計画を策定しようとしている。本報告では、これまでの経験経緯と、事業化に向けた基本的方向について紹介する。</p>
9 13:25~	<p>【取得補償立木の処理に関する取り組み】／一般(林道) 浜田県土整備事務所 農林工務部 治山・林道G 主任 福島琢二</p> <p>取得補償した立木を工事で処理する現行の制度は、見積価格の信頼性や、立木の積極的な有効活用が図られていない等の問題点があると考えます。 そこで、立木の有効活用及びコスト縮減を図るため、受託者の裁量で立木の売却もしくは取引を可能とした業務委託を試行的に実施しましたので、その取り組みについて紹介します。</p>
10 13:50~	<p>【出雲大社周辺における道路美装化工事のコスト縮減について】／一般(コスト縮減) 出雲市役所 都市整備部 大社門前町整備課 主任技師 安食 秀美</p> <p>現在出雲市において、出雲大社周辺の歴史的な町並みや、神話にちなんだ通りの整備をおこなうことにより、観光客の回遊性を高める整備をおこなっている。 その整備のひとつとして、道路美装化工事を行っている。今回の美装化舗装は、自然石を利用した地道風舗装を計画しているが、アスファルト混合物が通常の約5倍の価格であり、舗装の組み合わせによりコスト削減を行った。 本発表においては、その方法および施工問題点について報告する。</p>
14:15~	<p>休憩:10分</p>
11 14:25~	<p>【ダムの放流警報の疑問】／Ac 浜田県土整備事務所 維持管理部 御部・大長見ダム管理G 主任 原田 裕司</p> <p>ゲートレスダムの放流警報は、関連する法令・指針等に基づき、急激な水位上昇等の下流河川における危険な状態の発生を予測して実施されるものであるが、流域外からの流入の影響など実態に即して考慮することが難しい要素もあり、今年7月20日からの出水においては実際の現象の発生と予測が異なる結果となった。 裁判の判例等では放流以外の要因による影響についてダムの管理責任を問われることは稀だが、放流警報の前提条件を正しく住民に理解してもらうことが難しい現実もあるなかで、ルールどおりの放流警報を行えばよいという考え方が住民目線の行政と言えるのか疑問もある。 「ダムの放流警報とはそういうものだ」という意見もあると思うが、住民が必要とするタイミングで判りやすい警報を実施するための工夫の余地はあると考えており、ここではそのいくつかの可能性を述べる。</p>
12 14:50~	<p>【遊水池内における橋脚の施工計画及び管理について】／一般(施工管理) 出雲県土整備事務所 土木工務部 道路建設2G 主任 園山 千尋</p> <p>主要地方道出雲三刀屋線船津工区において、山陰自動車道と立体交差する区間内に(仮称)船津橋(橋長87m、幅員12m、2径間連続非合成鋼鈹桁)があり、その橋脚は斐伊川堤内地の排水対策用遊水池内に計画していた。 橋脚の構造はオールケーシング杭基礎であるため、仮設盛土施工ヤードを確保する必要があったが、遊水池内に想定以上のヘドロ堆積が確認されたため、対策を取る必要が生じた。この橋脚の施工計画の変更及び施工管理について報告する。</p>
13 15:15~	<p>【道路をもっときれいに(道路愛護団体との対話を通して得たもの)】／Ac 浜田県土整備事務所 維持管理部 維持G 主任 沖田英暁</p> <p>道路など公共土木施設の維持管理においては、多様化する県民の声に対する迅速、きめ細かな対応が求められている。一方、近年増加してきた道路愛護団体は、活動にあたって様々な課題を抱えており、行政としても団体のニーズに応じた活動支援を行っていくことが必要となっている。 このため、平成19年度に「公共土木施設の維持管理のあり方検討会」が道路等維持管理に関する課題について、地域住民と行政がワークショップなど対話を通して議論を深め、適切な役割分担と協働作業により課題の解決を図る「地域提案型維持管理」を提案した。 本論は、長年、道路愛護活動を行っている浜田市立後野小学校をモデルケースとして取り上げ、地域の抱える課題を協働により解決しようとした、維持管理における県内初のモデル事業の報告である。</p>

5. 意見・情報交換／表彰選考 15:40~16:00
6. 講評及び表彰 16:00~
7. 閉会 16:30